
首狩りメリーさん

夢幻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

首狩りメリーさん

【Nコード】

N5065V

【作者名】

夢幻

【あらすじ】

ダークメリーさんのちよつと長くなったものです。書いてるのが間に合う気がしなかったので、夏のホラーの方に出版してもらいました。

そして、あまりこわくありません、しかも短いです。そんなのでも構わない人は読んでってください

「は、彼奴来ない……。電話でもうすぐ着くって言うてたのに。」
俺は、電話で来るって言うていた、友だち来るの待っていた。
ピンポン

「おっ、来た来た。」

俺は、走ってドアまで行き、急いでドアを開けた。

「遅くなってごめん！飯食ってたら遅くなった！」

「まあ、来たからいいや。さあ、入って。」

俺は、友達を家に入れ、2階にある、自分の部屋にいった。

「で、家に来たのはいいいけど何する？一応トランプ持ってきたけど。」

「じゃあばは抜きでも、やろうぜっ！！」
俺は、友だちと、ばは抜きを始めた。

5分後

「負けた。」

俺は、友だちに結構な大差で負けてしまった。
プルプルプルプルプルプル

「あつ、ちよっと電話きたから出てくるわ。」

「おうっ！」

俺は、駆け足で、電話があるところまで、走って行った。

「はい、もしもし。」

「……………、あたし、メリーさん。今、あなたの部屋にいるわ。」

俺は、大急ぎで、友達のいる自分の部屋に走って行った。

「おい、どうした？そんなに慌てて（笑）」

友達は、電話を持ってにやにやとしていた。

「畜生！今の電話お前かよ！」

「え？何のこと？俺、今、親に帰るのが遅くなりそうってメール送っただけけど。」

俺は、パニックになった。

（じゃあ、今の電話は誰なんだ？）

プルプルプルプルプルプルプル

「まだ、行ってくる。」

「おうっ！」

今度は、友達が携帯を持っていないことを確認して、走って、電話に出た。

「はい、もしもし。」

「……………、あたし、メリーさん。今、あなたの友達の首を使って遊んでいるの。」

「え……………」

俺は、大急ぎで友達のいた自分の部屋に戻った。

「おい！だいじょうぶか、」

部屋に入って見たものは、首から大量の血を吹き出してる友だちの姿だった。

「あ、ああ、うわあああああああ！！！！！！」

俺は、思いつきり部屋から逃げた。できるだけ、速く。

「はあ、はあ、はあ。」

なんとか、走って、玄関に着いた。しかし、そこには、友達の首を楽しそうに振り回す、鉈を持った少女の姿があった。

「あたし、メリーさん、今度は、あなたの首が欲しい。」

「あ、来るな、来るなああああああ！！！！！！」

俺は、友だちの死体のある自分の部屋まで走って向かった。

「あなたが、何処まで逃げて、無駄だよ。あたしは、君の首で遊ぶって決めたから。アハハハハハハハハハハ！！！！」

俺は、頭の中が真っ白になった。

（俺は、もう死ぬのか？こんな所で死ぬのか？まだ、死にたくない！死にたくない！！）

そして、俺は、自分の部屋から、携帯を持って、飛び降りた。
ドサッ

「早くここから逃げないと。」

俺は、大急ぎで、近くの　？スーパーまで一目散に走って行った。

「ここまで来れば、大丈夫か？」

プルプルプルプル

「こんな時にいったい誰だ？はい、もしもし。」

「あたし、メリーさん。今、あなたの後ろの　？スーパーの入り口に
いるわ。」

俺は、スーパーの入り口の方へ振り返った。そこには、友だちの
首を持った、メリーさんがニヤニヤと笑って立っていた。

「なんで、いるんだ。あんな子がこんなにも早くここに来ることな
んか、できるわけがない。できるはずがないんだ。うわああああ
あああ！！」

俺は、いつの間にか、自分の部屋に帰っていた。ここに着くまで
の記憶は、ほとんどなくなっていた。

プルプルプルプルプル

「で、電話だ。出ないと。は、はい、もしもし。」

「おーい、大丈夫かー。」

聞こえてきたのは、死んだはずの友達の声だった。

「お前、生きてたのか！よかった……。」

「そんな訳ないでしょ、あたしメリーさん。今あなたの家の前にい
るわ。」

（そんな訳がない！今のは、友達の声だった、長い間の付き合い
なのに間違えるはずがない！）

俺は、本当にメリーさんが来てるか、確認をするため玄関へ、向
かった。

「よかった、誰もいない……。」

プルプルプルプルプルプル

次の、相手は、あなたかもしれませんよ。

（後書き）

感想をお願いします・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5065v/>

首狩りメリーさん

2011年8月10日03時16分発行